

12月21日からの広域・補完運行・かなちゃんバスに対する住民・利用者の要望・意見（要旨）  
（主にさくら坂住民の声）

### ① 感謝の声

継続運行はありがたい。これからも住み続けられる。通学、通勤できるようになってよかった。

人口減少にならないように走らせてほしいです。

金剛バスに比べて、運転が優しいし丁寧な放送もあり、ありがたいです。

議会とも連携して守って下さり感謝しています。職員の皆様に感謝です。

かなちゃんバスの年末運行の要望に応じてくれてありがたいです。表示がわからず2時間待ちました。バス停表示だけではなく、広報にも載せて、もっと分かりやすくしてほしいです。

今はあまり利用しないが、子どもが大きくなれば利用することが増えるので存続がありがたいです。

### ② 利用しやすさ

ICカードを全部のバスで使えるように(中学生の場合は、両替が難しくぴったりのお金の用意が必要)いろんなバスが走っていてわかりにくいと感じます。

もう少し遅くまで(22時台)のバスを走らせてほしいです。太子町は22時台もあると聞く。

(太子町内周回線 上ノ太子駅発 平日 22:27 休日 22:11)

河南町発行の時刻表の見方がわかりにくいです。バス停の表示と違う。

中学生は通学に使う。天候・体調・けがなどでバスを利用したいとき、朝の通学、部活終わりのかなちゃんバスがなくなって困っている。

人口減少の中、子育て世代は、引っ越しも考えている人も多い。広報だけではなく連絡が欲しい。

かなちゃんバスのバス停が大宝地区で離れて不便な場所がある、改善を。(大宝4丁目)

17時に富田林駅で待ち合わせをしたのですが、16時台のかなちゃんバスがなくて行けなかった。不便になったので乗る気にならない。

車がやっぱり主体。30分に1本ほしい。

ふれあいの湯利用者だが、バスが4時以降なくなったので風呂に行けなくなった。

### ③ 運賃

富田林までの運賃が高いと感じる。通学の場合もう少し安くしてほしい

かなちゃんバスの朝7時台の復活を。部活後のかなちゃんバスの復活をしてほしい。若しくは、中学生は、学生証を見せると100円にしてほしい。往復200円だったのが480円かかっています。バス料金が高いままでは、利用しにくいです。(年金生活者)

小山市のコミバスは、7割引きの年間定期発行で、市内自由にいけるので利用者が増えているとのこと。堺市では、お出かけ応援制度で市内100円でどこでも行けるそうです。高齢者が出かけて、路線バスの維持にも効果がある。交付金・補助金で運行できている。広域バスにも補助金が大切。町単独では持続化できない。運賃が上がるとますます利用者が減ると思う。

#### ④ その他

利用者や住民の声を聞くタウンミーティングの開催を。

一番利用者が多い高齢者の声を大切にしてください。行動範囲が狭くなれば、健康に影響する。

街づくりと関係づけてバス運行を考えてほしい。

金剛バスいつまで使うの？

山なみタクシーの運行をもっと増やして

ライドシェア、自動運転も取り組んで。

小中学生を持っている子どもの親の意見を聞いてほしい。懇談会等を。

利益の出ない路線に税金を際限なく当てていくのはマッチしないと思うのでライドシェア、バスのバランスをはかって。

バスの車庫が給食センター前にでき、駐車できない。中学生の送迎が増えているので困っているPTAが動いて、多目的広場を利用できて助かった。駐車スペースがいる。

数年間ドイツで生活したが、バス・電車が安価で非常に便利よく助かった。今は車で移動だが、乗れなくなったらどうしようと思う

事故の時に防災無線や、LINEで連絡できないか。どうなっているかわからなかった。

かなちゃんバスのように、バスロケーションシステムを。

時間外でも連絡でき、いつでも聞けるようにお客様相談窓口を作ってほしい。

⑤ さくら坂・鈴美台地区の要望書（参考資料）

河南町長 森田昌吾様

令和5年11月20日

河南町公共交通会議委員 関 忠和  
さくら坂1丁 区長 野村 由紀子  
さくら坂2丁 区長 武田 真也  
さくら坂3丁 区長 清水 春雄  
さくら坂4丁 区長 山本 広樹  
さくら坂南 区長 楠木 敏弘

さくら坂循環路線についての要望書 III

日頃から住民の目線で、行政を進められていることに敬意を表します。

4市町村の第4回地域公共交通活性化協議会が11月16日に開催されました。

公開された資料では、さくら坂地区の交通の便は、金剛バスの路線と運賃を引継ぎ、昼間の便数は減るものの通勤通学時の朝と夕方の多客時は、駅までの路線バス（近鉄に委託）と補完運行バス（河南町コミュニティバス）でカバーすることとなりました。

それにより、運行時間も6時台から21時台になり、要望していた終バスが1時間延長されました。

住民の声が反映されたことに感謝申し上げ、今後とも住民目線で行政を進めていただくようお願いいたします。

さて、「かなちゃんバス」が、駅への補完運行バスになるために午前8時台から午後4時台の運行と縮小されます。補完バスは、路線バス運賃での運行となります。

影響を大きく受けるのが中学生です。運賃が100円で学校まで行けたのが12月21日から240円となり、負担が急激に増え利用者の17%を占めていた中学生の乗客離れが起こることが予想されます。

路線及び、運賃、運行形態についてアンケートに示された声を今後とも反映されるよう以下の点を改めて要望いたします。

- ① 通学時の中学生の利用者運賃は100円とし、通学補助制度等を設けること
- ② アンケートに示された住民の声を施策に反映されること。
  - ア、 住民説明会・懇談会を開催すること。住民アンケートを実施すること。
  - イ、 運賃は現行料金より安くすること。定期券・回数券を発行すること。
  - ウ、 運行時間は6時台から22時台とし通勤通学の足を確保する手立てを行うこと

鈴美台1丁を經由し河内を經由しさくら坂を循環するルートを検討すること

4市町村地域公共交通活性化協議会

会長 松田 貴仁 様

公共交通の充実をめざす南河内住民ネットワーク

代表 寒川 新次

**4市町村地域公共交通活性化協議会への要望書**

金剛バス廃業に伴い、住民の足である公共交通を確保するために、ご尽力いただき感謝申し上げます。

9月11日の廃業発表から、12月21日に切れ目なく広域コミュニティバスとして、金剛バスの代替運行を実現されたことに関係市町村の住民は「陸の孤島にならなくてよかった」「これからも住み続けられる」「減便でも助かる」と感謝の声の一方「これ以上不便にならないか」「運賃を安く」「終バスが早い」「バス停の突然の変更は困る」「利用者の声を聞いて」など不安・改善の声があがっています。**何よりも「補助金獲得で、持続運行を」の声が切実です。**

さて、「公共交通の充実をめざす南河内住民ネットワーク 略称（公共交通南河内ネット）」は、利用者、住民の声をまとめ、公共交通に関する施策に反映できるようにすることを目的に、1月17日に4市町村の交通関係の住民団体をもとに連携して会を立ち上げました。

公共交通は、生活に不可欠なインフラであり、生存権の要です。移動の自由を保障することは、公共の福祉の向上を図る自治体の大きな役目と考えています。住民が、バスで出かけやすくなればゼロカーボンや国民健康保険の負担軽減に貢献できます。住民の足を充実させることが、まちづくりにつながります。貴活性化協議会が、その役目を果たす機関です。住民の声を施策に反映されるよう、以下の点を要望するものです。

- ① **新年度予算作成にあたり、国や府の補助金・交付税を申請し、獲得できるよう強力に進めること**
  - ア、経費の見積もり計算式（1km600円）の根拠・4市町村の負担割合を開示すること
  - イ、金剛バスへの補助金の実績と経営状況・廃業通告からの事務局の対応経緯を開示すること
  - ウ、新年度予算作成にあたり、国や府の補助金・交付税を獲得できるよう関係機関に働きかけること
- ② **住民や利用者の声を施策に反映させるために以下の点に配慮すること**
  - ア、公募委員・議会代表などを協議会の構成メンバーに加え、住民の声をより反映できるようにすること
  - イ、住民アンケート・利用者アンケートを実施すること。利用者調査を行うこと
  - ウ、利便性向上のために、お客様相談窓口を設けること
  - エ、各市町村で住民懇談会等を行うこと
- ③ **公共性の強いコミュニティバスとしての運営を行うこと**
  - ア、4市町村地域公共交通会議との連携を図ること
  - イ、運賃は、利用者増と高齢者のお出かけ支援と関連させ、住民負担の軽減を考慮すること
  - ウ、路線やバス停は、利便性を考慮し編成を行えるように、地域住民の声を反映し編成すること
  - エ、災害・事故・遅延・運行中止等の対応ができるようなバスロケーションシステムを作ること
  - オ、委託先事業者任せではなく、4市町村と連携し責任をもって運行できるようなシステムにすること
- ④ **持続的・継続的な交通システムについて、実情を踏まえ住民とともに研究・検討を行うこと**
  - ア、デマンドシステム・乗り合いタクシー・予約制等の交通システムの検討を行うこと
  - イ、幹線路線と支線路線の連携や各地域コミュニティバスとの連携を図り、総合的な交通体系の研究・検討を住民目線で行うこと
  - ウ、街づくりと一体として考えること。「安価で乗りやすく、乗りたくなるバス」にするための工夫を住民と共に考え、利用者の増加になる施策を研究・検討すること